

平成23年度事後評価結果(平成23年7月)

[研究開発課題名] 機能性インクを使用した印刷ラベルによる偽造防止セキュアプラットフォームの研究開発

[委託機関名] シヤチハタ株式会社

項目	評価ランク	総合所見
総合所見	B	<p>(技術関係)</p> <p>・本研究開発は、製品・流通保障に関する情報セキュア基盤となる新技術製品として、偽造防止機能を印刷ラベルに与える認証システムに関するものであり、印刷ラベル画像の色特徴を用いた安全性の高い認証方式の提案は他に例が無く、新規性の高い研究開発である。医薬品など個別ラベルの色特徴点抽出から個々の一意のベクトル情報での認証機能を実現しており、偽造防止セキュアプラットフォームの技術的な課題を達成している。</p> <p>・試作品により基本的な技術を達成しているが、製品化に向けては、照合精度、システムパフォーマンスと安全性も考慮した段階的な導入が望まれる。</p> <p>・医薬品分野における偽造薬・模造薬(カウンターフィットドラッグ)に対するの対策に貢献が期待出来る。また、今後は加工食品の領域に対しても展開が期待できる。</p> <p>・本研究技術分野である人工物メトリクスを研究している研究機関等と連携し、ISOなどへの国際標準化規約への策定を検討しており、今後の活動に期待する。</p> <p>・特許出願、論文・学会発表がないことは問題であり、今後の努力を要する。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>受託者は、製品の提案・売り込みについては関連製品の顧客を多く持っている企業との連携、製品化においてはSI事業者との連携、製品の普及活動については大学との連携を従来より実施し、さらに新たにASPサービスの提供のために通信事業者との連携を行っている。また、提案製品の開発と実用化に取り組んでいることを外部に発表しているなど社内の注力度が高く、製品化に必要な資金が確保されている。</p> <p>提案製品がターゲットとしている、ラベルの識別・認証・管理システムは、既に、RFIDやバーコードリーダなどの既存技術・製品が多く市場を獲得している。このため、これらの既存製品の市場に食い込んでいくには、提案製品に適したアプリケーションの開拓と、小型化、低価格化、操作性や信頼性の向上を図っていくことが重要であるが、現在のところ、プロトタイプの開発が、中間評価時に想定した時期よりも10ヶ月程度遅れており、ユーザの獲得も進んでいない状況より、目標の市場シェアと収益を得ることは困難と考える。</p> <p>従来、予定した特許出願が1件も行われていないことは問題であり、今後の知的財産の取得に努力を要する。</p>
		<p>(B評価の原因)</p> <p>全般に優れた研究開発成果を挙げ、事業化にも熱心に取り組んでいるにも拘わらず、評価ランクがBとなった原因は以下の二つである。</p> <p>(1) 事後評価の段階で特許の出願が1件もないこと、また論文・学会発表等のパブリックリターンが極めて少ないこと。</p> <p>(2) RFID等競合する既存技術・製品が既に広く用いられている中で、提案技術の優位性が十分に示されているとはいえず、目標の市場シェアと収益を達成することが困難と見られること。</p> <p>しかし、これらは今後、創意と努力により、改善される可能性があると期待している。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。